

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（第4回）

◆ さらなる発展へ向けて、今後の取組方針を議論！

- 開催日時：平成30年3月6日（火）15:00～17:00
- 実施場所：京王プラザホテル札幌 ペガサスルーム（札幌市）
- 参加機関等：学識経験者、長沼町関連団体、北海道空知総合振興局、北海道地方環境事務所、長沼町、札幌開発建設部、（公財）日本生態系協会 等



【協議会の様子】

長沼町に飛来した
タンチョウ



取組方針

● 各専門部会の取組状況

○生息環境専門部会

- ・営巣環境構築（微高地造成）
- ・アライグマ防除
- ・ガイドライン(案)策定 等

○地域づくり専門部会

- ・利活用拠点施設による社会実験
- ・観察会などイベントの実施
- ・先進地視察 等

● 今後の取組方針

◆ 目標とする将来像を地域で共有し、取組みを発展させる。

- タンチョウ飛来地の環境調査
- ヨシ等の植栽などタンチョウの営巣環境づくり
- 北海道や周辺市町と連携したアライグマ防除
- むかわ町など先進地から学び取組みを加速
- 民間企業など多様な主体の参画を促す

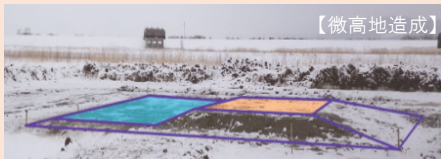
● 今年度の取組状況

- ◆専門部会及びワーキンググループを主体に各種取組を実践。
- ◆新聞テレビ等で取り上げられるなど認知度が高まる。

営巣環境構築

遊水地内にタンチョウ営巣用の微高地を造成。

【微高地造成】



利活用拠点施設を仮設

来訪者やニーズを調査。バードウォッチングなど来訪が多数あり好評。

【拠点施設】



ガイドライン(案)策定

観察マナー一定着に向けガイドライン(案)の策定、看板等による啓発。



【看板設置】

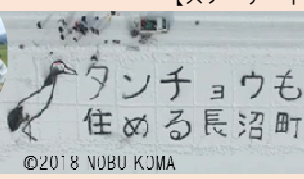
イベント開催

観察会、スノーアートなど行い、環境教育・住民参加を促進。

【スノーアート】



【長沼タンチョウレンジャー】



©2018 NUBU KJMA

中村座長

目標とする将来像を地域で共有することが重要。現在タンチョウが飛来している場所や、他の営巣地の環境と比べることで、何が足りないか見えてくる。

戸川町長

タンチョウが繁殖に成功すれば地域も盛り上がり期待している。町でも鶴居村の子どもたちとの交流や環境教育などをしっかり取り組みたい。

委員からの意見

- ・もっと町民にも周知して町全体の取組みに
- ・一般の人でも多数訪れることで取組が進む
- ・民間企業との連携などを検討したい
- ・出来るところから新たな取組をしたい



● 平成30年度実施事項(案)

営巣環境の構築	微高地造成箇所でのヨシ等植栽活動 地域で連携したアライグマ対策
利用マナー一定着	多様な主体の連携による見守り活動
連携・交流の促進	長沼町と鶴居村の子ども交流イベント
地域資源の活用	商品開発（例：タンチョウソフトクリーム）
普及・情報発信	イベント、PR動画制作など
利活用の将来像	拠点施設での利用状況・意向調査

第4回タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 議事概要

〔日 時〕：平成30年3月6日（火）15：00～17：00

〔会 場〕：京王プラザホテル札幌 ペガサスルーム

〔出席者〕：全35名（委員12名、傍聴・報道機関7名、事務局等16名）

（1）タンチョウの飛来状況等について

- 事務局：長沼町周辺のタンチョウ飛来状況、舞鶴遊水地のねぐら利用状況等を報告。
- 今年は千歳川～夕張川で頻繁にタンチョウが飛来しているが、冬期の自然採食環境がないため降雪を機に南方へ移動している。
- タンチョウの分布が拡大しているなか、冬季の生息環境の質を向上させる方策についても今後検討する必要がある。

（2）各専門部会における検討状況について

- 生息環境専門部会：営巣環境構築方策（微高地造成）、定着阻害要因対策（アライグマ防除）、社会ルールの定着（ガイドライン(案)作成・普及）等の取組について報告。
- 地域づくり専門部会：地域の利活用実態調査（利活用拠点施設による社会実験）、取組の普及啓発（イベント等の実施）、先進地視察等の取組について報告。
- 利活用拠点施設を設置したことでは、長沼町外からもバードウォッチングを主目的に多数の来訪があり、リピーターも多いことが分かった。

（3）検討協議会等の活動に対するPRおよび報道状況について

- 事務局：検討協議会における活動に対するPRおよび報道状況について報告。

（4）今後の検討事項について

- むかわ町の見守り活動などは長沼町の取組のモデルになる。意見交換を含めて交流を深めていくのは良いこと。
- 平成29年度にタンチョウが飛来した場所や舞鶴遊水地周辺の環境について、営巣・採食・休息等の視点から目指すべき環境を議論することが必要。既にタンチョウが営巣しているむかわ町などの生息環境を調査・比較することで何が足りないか見えてくる。そういった情報を集めて、タンチョウが住めるような環境作りを目指していくのがいい。
- タンチョウの飛来回数・範囲・滞在時間が増加している中、むかわ町などの利用環境を参考に遊水地以外の生息環境についても考えていく必要がある。
- 施設の活用検討においては、自然資本を利活用していくための地域ニーズについても把握し、マナー啓発に留まらない広い視野での議論をすることで地域の活性にも役立つ。

（5）取組方針の見直しおよび来年度の取組事項について

- 事務局：生息環境専門部会及び地域づくり専門部会の取組方針の見直し及び次年度の取組内容を報告。
- 今後は、目標とする自然環境や利活用のあり方について、将来像を地域で共有し取組を発展させることが重要。

<生息環境の構築>

- タンチョウ営巣を見据え、周辺の採食場所など求められる環境を共有しての議論が必要。
- アライグマ防除では北海道や周辺市町との連携・協力も検討する。

<社会ルールの定着>

- 作成したガイドライン（案）に基づき、今後地域の中で議論を行い、地域の実情に合わせたルールにしておくことが必要。また、マナーと共に地域の魅力も併せて発信できると良い。
- むかわ町の取組みなどを参考に、見守り活動もできるところから取り組みたい。

<環境教育・住民参加>

- 子どもたちを対象とした普及啓発イベント等を通して、多くの町民へ取組を発信していく。
- 鶴居村との子どもたちの交流イベントを実施する。
- 毎年全道一斉で行われているタンチョウの越冬分布調査に、長沼町の子どもたちにも参加してもらいたい。生息が記録されなくとも地域の環境を考えるよい機会になる。

<農産業・観光・情報発信>

- ソフトクリームの商品開発など、様々な立場からの関わり方があると思う。それぞれが取り組む中で、全体として良い方向に向かっていければよい。
- 普及啓発イベント以外にも、様々な切り口から多様な主体が参画できるような取組を実践していく。また、取組の具体化に伴い、企業等との連携・協働も検討する。